

令和4年度
厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業
—近畿地区—

報 告 書

滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科

目 次

1. 代表者挨拶	1
2. 事業報告	2
連携機関一覧	6
1. 産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業	9
2. 開業医・リハビリテーション療法士との慢性疼痛診療連携事業	10
3. 心療内科による慢性疼痛診療連携事業	11
4. 慢性疼痛に対する集学的診療推進事業	12
5. 慢性頭痛の診療連携推進事業	13
6. インターベンショナル痛み治療の診療連携推進事業	14
7. 歯科・口腔外科の診療連携事業	15
8. デイケア・デイサービス等の診療連携事業	16
9. 患者会との連携事業	17
研修会開催一覧	18
3. 研修会開催報告	20
■主催セミナー	
①頭痛セミナー「かかりつけ医のための頭痛診療ファーストステップ」	20
②患者会連携セミナー「難病患者の多くを苦しめる慢性疼痛、その正体と対応」	24
③多職種向け慢性痛診療連携セミナー	
「インターベンショナル治療が有効な腰痛を知ろう」	30
④第1回 開業医・リハビリテーション療法士セミナー「楽しくできる慢性痛診療」	33
⑤多診療科セミナー×集学的診療セミナー@福井大学	38
⑥第1回 地域医療介護連携セミナー	
介護現場での「痛み」の対応を学ぶー介護者の痛みの問題ー	41
⑦第3回 歯科医のためのHeadache Academy	
～三叉神経・自律神経性頭痛(TACs)の診かた～	45
⑧産業界慢性痛セミナー	49
⑨心と身体の痛みセミナー「慢性疼痛治療に使えるできる心理士(師)の工具箱」	54
⑩第2回集学的診療セミナー「見えない病気と知られない病態の中で生きる	
エーラスダンロス症候群の患者 集学的診療システムが光をあてることができるか」	59
⑪第2回歯科セミナー	
「第5回 歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」	62
⑫集学的痛み診療セミナーー精神科との連携について考えるー	67
⑬市民公開講座「あなたのその痛みの治し方～あなたと私(医療者)ができること～」	71
⑭近畿ブロック慢性疼痛診療研修会(共催:痛み財団)	77
⑮第2回 地域医療介護連携セミナー	
「事例検討を通じて在宅医療の様々な痛みを考える」	78
■共催セミナー	
⑯千里山病院多診療科セミナー(院内研修会)	82
⑰第24回 富永病院 頭痛教室	83
⑱「第13回関西痛みの診療研究会」	90
⑲精神科医が伝える!慢性疼痛に対する実践的アプローチー発達障害の観点も含めてー	92
⑳第8回 慢性痛に対する認知行動療法研修会	95
4. News Letter	96
5. ポスター・HP・FB・LINEなど	100



滋賀医科大学附属病院ペインクリニック科

福井 聖



慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業は、各地域における集学的痛みセンターの設立と介護領域まで含めた医療介護連携体制のモデルを構築すること、慢性の痛み診療に携わる人材を育成すること、診療ノウハウを医療者・介護者に広く普及することをコンセプトとして、日本全国を8地域に分けて取り組みが進められております。しかしながら本邦では、慢性疼痛診療、集学的痛みセンターに対する診療報酬化、拠点病院化などが十分でなく、慢性疼痛を持つ患者に対して適切な医療を提供することが難しい状態が続いており打開策を見つけることが容易ではありません。このような状況の解決策として、近畿地区でのモデル事業は、痛みの専門医が難治性の疼痛患者を診ることだけに焦点を当てるのではなく、開業医、心療内科医、精神科医、整形外科医、リウマチ外科、内科医、神経内科、脳神経外科医、産業医、歯科医師、リハビリ療法士、心理士、薬剤師、看護師、介護士、ケアマネージャーなど多診療科、多職種の医療介護関係者が有機的に連携して、地域全体でチーム医療介護を支えていけるような診療連携体制の構築を目指してまいりました。

6年目にあたる令和4年度の慢性疼痛診療体制構築モデル事業—近畿地区—では、産業界、開業医・療法士、心療内科・精神科、集学的治療、頭痛診療、インターベンショナル治療、歯科治療、地域医療介護、患者会との連携、合計9事業を行うことができました。各事業の核になる先生方の御協力により、長引く痛みで苦しむ患者さんや関係する医療介護者にとって有用なネットワークの構築、人材育成が毎年充実してきております。また、日本痛み財団、認知行動療法研修開発センター、関西痛みの診療研究会との共催セミナーを行い、各痛みセンター施設における多診療科にわたる連携をスムーズにするためのセミナーを行いました。次年度からの慢性疼痛診療システム均てん化等事業では、主幹を関西医大心療内科・痛みセンターにうつし、慢性疼痛に関連する診療体制の構築、セミナー、企画をさらにブラッシュアップしていきたいと考えております。

今年度は、滋賀医科大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、関西医科大学附属病院、篤友会千里山病院、富永病院頭痛センター、京都府立医科大学附属病院、兵庫医科大学附属病院、国立大阪南医療センター（リウマチセンター）、奈良県立医科大学ペインセンターの9施設が厚労省慢性疼痛政策研究事業班として正式に認定されています。また、地域で慢性疼痛に対してチーム医療を行う開業医・療法士との連携体制が整ってきています。本事業では、スムーズに連携が行えるように、慢性疼痛の診療をさせていただける開業医の先生、心療内科の先生方のリストアップとマッピングをしてきました。さらに、今年度は、慢性痛に関連する症状の診療をさせていただける精神科の先生方のリストアップを行い、本事業を多くの市民、患者さんに知っていただくような広報活動として、市民への啓発を目的とした市民公開講座をオンラインで行い、一般向けのホームページ（いたきんネット）を作成することで、啓発活動の充実を行ってきました。

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業では、領域を超えた多職種、多診療科、多業種の協力をいただいております。現実の医療では、集学的痛みセンターに対する診療報酬化がなく、慢性疼痛を持つ患者に対して適切な医療を提供することが難しい状態が続いております。そのような状況で、少しでもよい医療が提供できるようにするには、地域で各医療機関の特徴を生かして医療介護連携を行い、地域全体として集学的治療ができるということが、今後めざしていく方向かと考えております。

最後にモデル事業の運営に多大なご協力、ご尽力を頂戴してまいりました皆様方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

2 事業報告



これまでの取り組み

慢性の痛み対策としてH29年度に開始された慢性疼痛診療構築モデル事業は、R2年度から慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（以下モデル事業）と名称を替え、全国8地区にて取り組みが進められてきた。近畿地区では、「産業界」「開業医リハビリテーション」「歯科領域」「慢性頭痛領域」「集学的診療」「インターベンション」「地域医療介護連携」「患者会連携」など、領域や介入方法で事業を細分化し、医療者向けのセミナーや市民向けの公開講座を開催してきた。各事業は年1-2回のセミナーを開催し、本モデル事業が主催するセミナーの参加者総数は年間1600名を超えるまでになった。これらの活動を通して診療連携につながった患者数は判明しただけで年間100例を超えた。

近畿地区では生物心理社会モデルに基づいた慢性疼痛診療の体制構築推進に向け事業を進めていたが、新型コロナウイルスの流行により人の往来が制限され、医療者向けセミナーや施設見学、市民公開講座の実施は困難となった。慢性疼痛を持つ患者の外出も困難となり、受診行動にも影響が出た。一方で、WEBを中心にセミナーを運営することによって、今まで距離的な事情や時間の都合で会場に来ることが困難であった方々が日本全国から参加可能となった。結果的に、本モデル事業の一つの課題である「事業の均てん化」が進み、近畿地区だけではなく日本全国にも情報発信することができた。



令和4年度の新たな取り組み

今年度は、精神科医との連携と患者や一般の方々への広報を課題にあげた。精神科医との連携構築を目指し「精神科向けセミナー」を開催し100名を超える参加者があった。また、患者や一般の方々への広報のために患者会連携の事業を立ち上げ、全国ファブリ病患者会や後縦靭帯骨化症患者会の協力を得て、痛みをもつ難病の方々やその家族の方向けのセミナーを開いた。また、慢性痛診療の実際を知っていただくために市民公開講座を企画しYouTubeで配信した。

地域医療介護領域の事業では介護者の痛みをテーマとし、ノーリフトの取り組みを取り上げた。集学的診療の取り組みにおいては「エーラスダンロス症候群患者に対する集学的診療」を取り上げ、今後の慢性疼痛診療運営のモデルとして、一つの医療機関ではなく複数の医療機関での集学的診療構築を慢性疼痛の診療においても実施できる可能性を示すなど新しい方向性に向けても取り組みを進めた。

今後の課題

本モデル事業は今年度で一区切りの3年を迎えた。

産業界の事業の課題としては、慢性痛についての適切な情報をより多くの産業界に伝えていくことが重要で、これまで滋賀県と大阪府での開催に限られてきた本事業のセミナーを今後は他の府県でも開催することが目標である。開業医リハ事業の課題としては、運営する開業医がこれまで整形外科医とペインクリニック医に限られてきた。今後は一般内科医をはじめ、脳神経内科医、リウマチ内科医、精神科医など幅広い診療科の医師の参画が望ましい。歯科領域の課題は、歯科の医療機関の中でリハビリ療法士や心理師などと集学的診療を実施することが非常に困難である。解決策として心身医療の事業と連携を深め病診連携を図って行くことである。地域医療介護の領域は、日本社会が抱える高齢者問題と重なり、非常に大勢の患者や介護者の慢性疼痛という非常に重要な問題を扱う。我々が開催するセミナーでは規模が小さく、今の日本社会が抱える介護現場の痛みという非常に大きな問題の改善には非力である。今後は地域医療介護のさまざまな団体や組織と連携して、痛みに関する適切な知識や情報の提供を幅広く進めていく必要がある。近畿地区には9つの痛みセンターがありそのうち6つが大学病院である。慢性の痛み対策は痛みセンターを拠点として広げる方針が進められており、これまで大学病院を中心に行われてきた。しかしながら、多くの大学病院では外来でのハビリ実施が困難なことなどや制度上の制約、経営的な事情、上層部の理解を得るのが困難などの事情から集学的な診療を積極的に進めることが困難であることも明らかとなってきた。また、大きな病院よりむしろ小規模の医療機関やクリニックでも実施可能な診療は多い。慢性痛に対する集学的診療は一つの医療機関で完結することは困難であり、エーラスダンロス症候群患者に対する集学的診療連携を一つのモデルとして、複数の医療機関で連携する体制の整備を進める必要がある。

痛みの原因を明らかにすることが困難で、様々な治療で緩和しない痛みを持つ患者は多数の医

療機関を受診する傾向がある。慢性の痛みに対して画期的な治療法が少ないが現実であり、痛みと共に生活することに視点を移しサポートする体制を整えることが求められる。この目的を果たすためには、医療者への啓蒙を進めるだけでなく、地域における診療ネットワークの情報を一般市民に提供することも重要である。今後の課題として、全国8地区の拠点間の連携を深め、共同でのセミナーの開催や他施設の運営を学ぶ機会を提供していきたい。

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（近畿地区）

ー 残っている課題

- ・ 慢性疼痛診療のネットワークが不十分
 - ・ 産業界と医療機関の連携
 - ・ 歯科医療とリハビリや心身医学的アプローチ
 - ・ 地域在宅医療介護医療における対策
 - ・ 頭痛以外の内科医との連携
- ・ 慢性疼痛を持つ方や一般の方に本事業の活動が知られていない
 - ・ 広報活動を広げる対策が不十分
- ・ 他の地域のモデル事業とのつながりが希薄
 - ・ 活動を共有する機会が非常に少ない

【2023年3月19日オンライン事業報告会】



1. 産業界

産業界で発生する
慢性疼痛診療連携事業

**2. 開業医**

開業医との
慢性疼痛診療連携事業

**3. 心身医療**

心療内科による
慢性疼痛診療連携事業

**4. 集学的診療**

慢性疼痛に対する
集学的診療推進事業

**5. 頭痛診療**

慢性頭痛の
診療推進事業

**6. インターベンション**

インターベンション治療の
診療連携推進事業

**7. 歯科医療**

歯科・口腔外科の
診療連携推進事業

**8. 地域医療介護連携**

デイケア・
デイサービス等の
診療連携事業

**9. 患者会連携**

患者会との連携事業

**参 画 施 設****集学的痛みセンター**

滋賀医科大学医学部附属病院
大阪大学医学部附属病院
関西医科大学附属病院
富永病院頭痛センター
医療法人篤友会 千里山病院
兵庫医科大学病院
京都府立医科大学附属病院
国立病院機構大阪南医療センター
奈良県立医科大学附属病院

セミナー企画・運営機関

神戸大学医学部附属病院
市立芦屋病院
大津赤十字志賀病院
大阪大学歯学部附属病院
和歌山県立医科大学附属病院
福井大学医学部附属病院
近畿大学病院
早石病院
川崎医科大学附属病院
臈所診療所
なかつか整形外科リハビリクリニック
田中整形外科
さかいペインクリニック
さかうえクリニック
てんじん整形外科 リウマチ科
のぞと診療所
かわたペインクリニック
おかやま在宅クリニック

連携機関一覧

〈連携機関〉大阪府

心療内科	なにわ生野病院 心療内科
心療内科	コープおおさか病院 心療内科
心療内科	橋爪医院 心療内科
心療内科	よしえクリニック 心療内科
心療内科	医療法人まちだクリニック 心療内科・内科
心療内科	にしだクリニック 心療内科・漢方内科
心療内科	医療法人徳洲会松原徳洲会病院 心療内科
心療内科	近畿大学病院 心療内科
心療内科・精神科・内科	かえでクリニック
精神科・心療内科・ペインクリニック内科・緩和ケア内科	医療法人有健会 ほしやま心と体の痛みクリニック
精神科	医療法人河崎会 水間病院 精神科
精神科・心療内科	青空精神科・心療内科
精神神経科	関西医科大学附属病院 痛みセンター 精神神経科
整形外科	わだ整形外科クリニック
整形外科	医療法人 愛輪会 あい整形外科リハビリクリニック
整形外科	平成野田クリニック
整形外科	医療法人桃陰会 いもと整形外科 院長
整形外科	医療法人京進会整形外科きょうたにクリック
整形外科	医療法人尽生会 聖和病院 整形外科
整形外科	えびす診療所
整形外科	明寿会林原整形外科
整形外科	こさか整形外科リウマチクリニック
整形外科	今里いながき整形外科
整形外科	医療法人貫遥会もりた整形外科クリニック
整形外科	医療法人ウマノ整形外科クリニック
整形外科・麻酔科・ペインクリニック内科	医療法人 丸岡医院
内科	山田内科医院
内科	もとざわ医院
内科	植田診療所
内科	大谷クリニック
内科	谷口消化器内視鏡クリニックJR久宝寺院
内科	南川循環器科
内科・循環器科	藤崎クリニック
内科・小児科	西里医院
脳神経外科	藍の都脳神経外科病院 脳神経外科
脳神経外科	福島脳外科クリニック
ペインクリニック内科	ももたろう痛みのクリニック
ペインクリニック内科	医療法人爽林会 ハヤシクリニック
ペインクリニック内科	松野泌尿器科クリニック ペインクリニック内科
ペインクリニック内科	松田クリニック
ペインクリニック内科	医療法人俊優会ふじわら診療所
麻酔科	りんくう総合医療センター 麻酔科

〈連携機関〉大阪府

麻酔科	関西医科大学 麻酔科
血液透析・内科・循環器科	医療法人育祥会 須澤クリニック
一般内科	医療法人三谷ファミリークリニック
眼科	大谷眼科クリニック
外科	淀川若葉会病院
産婦人科	飯藤産婦人科
産婦人科	医療法人平治会SALAレディースクリニック
歯科	にしわきデンタルクリニック
歯科	かとう歯科
歯科	くまざき歯科東大阪診療所
歯科	フクダ歯科クリニック
歯科	なかの歯科
歯科	佐伯歯科
歯科	市立池田病院 歯科・歯科口腔外科
歯科	たき歯科医院
歯科	福西歯科口腔外科
歯科	清水歯科
歯科	大阪大学大学院歯学研究科 歯科麻酔学教室
歯科	おがわ歯科
歯科	下出歯科
歯科	広田歯科
歯科	医療法人クレモト歯科小児歯科
歯科	医療法人和光会光井歯科診療所
歯科	医療法人慶生会 ひぐち歯科クリニック
歯科	森歯科
歯科	大野歯科医院
歯科	いしみ歯科
歯科	池田歯科医院
歯科	木村歯科医院
歯科	田中歯科clinic
歯科	平田歯科医院
歯科	とりい歯科医院
小児科	ほづみ小児科
神経内科	なかつ神経内科クリニック

〈連携機関〉兵庫県

心療内科	神戸赤十字病院 心療内科
整形外科	坂部整形外科 院長
整形外科	もりもと整形外科
整形外科	原田リウマチ科整形外科
整形外科	松本整形外科
整形外科	松本整形外科
整形外科	かなたクリニック
整形外科	伊熊整形外科
整形外科	鈴木整形外科
内科	医療法人仁寿会 石川病院
脳神経外科	池本脳神経クリニック
ペインクリニック	シミズクリニック
ペインクリニック	ペインクリニック 芦屋ピッコロ診療所
ペインクリニック	井上クリニック
整形外科	顕修会すずらん病院 整形外科
産婦人科	レディスクリニックヨコヤマ

〈連携機関〉滋賀県

心療内科	彦根市立病院 心療内科
整形外科	山田整形外科病院ペインクリニック科
整形外科	岩本整形
整形外科	遠藤クリニック
内科	医療法人若樹会橋本医院
脳神経外科	公益財団法人豊郷病院脳神経外科
歯科	純歯科医院

〈連携機関〉奈良県

歯科	奈良県立医科大学口腔外科
神経内科	平成まほろば病院 神経内科
整形外科	永野整形外科クリニック
脳神経外科	医療法人風尚会やました医院
ペインクリニック内科	岩田ペインクリニック内科
麻酔科・内科	(医)南風会 みなみクリニック
精神科	医療法人敬仁会辻野医院 精神科

〈連携機関〉京都府

心療内科	医療法人弘正会西京都病院 心療内科
精神科・心療内科	京都府立医科大学附属病院 精神科・心療内科

〈連携機関〉和歌山県

心療内科	日本赤十字社和歌山医療センター 心療内科・緩和ケア内科
整形外科	琴の浦リハビリテーションセンター
整形外科	納田整形外科 整形外科 医師
外科	医療法人愛晋会 中江病院 外科
整形外科	社会医療法人 スミヤ 角谷整形外科病院

1. 産業界

産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業

北原 照代（滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門、膳所診療所）

1. セミナーの開催

2022年12月10日（土）に産業医慢性痛セミナーを開催した（共催：日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会、大阪府保険医協会産業医対策委員会、滋賀県医師会、滋賀県産業医会、滋賀県産業保健総合支援センター 後援；滋賀県、大阪府）。感染対策のため、滋賀会場（滋賀医科大学）と大阪会場（堺市産業振興センター会館）における対面とオンラインのハイブリッド開催とした。参加者は182名（滋賀会場44、大阪会場82、オンライン50、登壇者6）であった。内容は、①滋賀医科大学医学部附属病院・学際的痛み治療センター長の福井聖先生が「令和4年度慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-」について説明後、産業医との連携推進の重要性について講演。②共催団体である日本産業衛生学会作業関連性運動器障害研究会の代表世話人で産業医科大学教授の榎原毅先生が、長時間座位による腰痛と人間工学的対策について解説。③千里山病院修学的痛みセンター医師の高橋紀代先生が、痛みを抱える人に対する就労支援に取り組んでいる集学的痛みセンターの取り組みを紹介。終了後のアンケート（回答者79名）によると、77%の参加者から高い評価が得られた。

2. 診療連携

膳所診療所から滋賀医科大学付属病院学際的痛み治療センターへの新規紹介は1事例、過去に紹介しプログラムはいったん終了したものの復職後の状況変化により再度相談したケースもあった。今後も引き続き、症例数及び連携医療機関の増加が必要である。


3. 課題

慢性運動器疼痛患者の治療と仕事の両立支援に向けて、セミナーの継続・発展、産業医との協働、連携医療機関の拡大などが重要である。

2022年度の取り組みのまとめ・今後の課題

-産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業-

滋賀医科大学・社会医学講座・衛生学部門
(膳所診療所・職業病外来) 北原 照代



1. 取り組み

- 産業医や開業医を対象としたセミナーの開催
 - 参加者182名
 - 滋賀会場44、大阪会場82、オンライン50、登壇者6
 - 作業関連性運動器障害の人間工学的対策(一次予防)と、臨床に則した治療と就労支援(三次予防)の両方を学ぶことができた
 - アンケート回答者79名中77%で高い評価を得た
- 診療連携を継続
 - 膳所診療所⇄滋賀医科大学附属病院 学際的痛み治療センター

2. 今後の課題～慢性運動器疼痛患者の治療と仕事の両立支援

- セミナーについて、他の事業(地域医療介護連携、頭痛、心身医療、集学的診療)との連携・協働、学会・研究会との協働
- 産業医との連携・協働
- 連携医療機関の拡大、紹介事例数の確保
- 増加し続ける「介護・看護領域における腰痛」へのさらなるアプローチ

2. 開業医

開業医・リハビリテーション療法士との慢性疼痛診療連携事業





田中 浩一（田中整形外科）

今年度も上半期に、医療者（医師・看護師・リハビリ療法士・その他）向けにセミナーを開催しました。慢性痛患者への対応方法について、診療シミュレーション動画を提示しながら、パネリストや参加者とのディスカッション形式でセミナーを行いました。慢性痛患者と医療者のやり取りの例を示しながら、心療内科医とのディスカッションを通して、患者へのアプローチ法を具体的に例示することができました。しかし、今年度も昨年度に引き続きコロナ禍のため、オンライン（一部会場参加）開催がメインであったため、参加者との交流が限定的でした。

下半期では、新たな取り組みとして、一般市民を対象に公開講座をオンラインで開催しました。医療者のみならず、一般市民に慢性痛についての認知度を高めていくことができました。一般市民の慢性痛診療の認知と需要を高めることにより、更なる診療システムの拡充の可能性が広がると考えています。

今後の課題として、医療者間の慢性痛診療の連携が未だ遅れていると感じています。また、一般市民にとっても、慢性痛に関する理解や専門医療機関へのアクセスは未だ不十分です。モデル事業から一般向けに公開されているサイト「いたきんネット」などを活用しながら、慢性痛に関する啓蒙活動と医療者連携を今後も継続していきます。

開業医・リハビリ療法士 慢性疼痛診療連携事業2022

	医療者	一般
実行	<p>◆今年度も、医療者向けセミナーを開催した。慢性痛患者への対応方法について診療シミュレーション動画を提示しながら、パネリストや参加者とのディスカッション形式でセミナーを行った。慢性痛患者と医療者とのやり取りの例を示しながら、心療内科医とのディスカッションを通して、患者へのアプローチ法を具体的に例示することが出来た。</p> 	<p>◆新たに一般市民を対象に公開講座をオンライン開催した。</p> <p>◆医療者のみならず一般市民へ慢性痛についての認知度を高めることが出来た。患者サイドから慢性痛診療への需要を高めていくことで、更なる診療システムの拡充を図った。</p> 
課題	<p>◆昨年度に引き続きコロナ禍のためオンライン（一部会場参加）開催がメインであったため、参加者との交流が限定的であった。医療関係者間の連携拡充が遅れていると感じる。</p> 	<p>◆慢性痛に関する理解や専門医療機関へのアクセスが未だ不十分である。今後もモデル事業から一般向けに公開されているサイト「いたきんネット」などを活用しながら、一般市民への慢性痛に関する啓蒙活動を今後も継続したい。</p> 

【田中整形外科 田中浩一】

3. 心身医療

心療内科による慢性疼痛診療連携事業

水野 泰行（関西医科大学心療内科学講座）

【セミナーの開催】

- ・第13回関西痛みの診療研究会（当番世話人：渡邊 恵介先生）：4つの一般演題と2つの特別講演を開催した。参加者は54名（会場15名、オンライン39名）で、医師・歯科医師が約78%で、他に心理士（師）、理学療法士、作業療法士などであった。
- ・第3回心と身体の痛みセミナー：「慢性疼痛治療に使えるできる心理師（士）の工具箱」をテーマに3つの症例報告、1つの講演を開催した。参加者は142名（会場15名、オンライン127名）と昨年度よりも大幅に増え、関心の高さがうかがわれた。医師・歯科医師が約30%、心理士（師）が約32%と、医療現場における心理職との連携という目的に則した職種の人に参加してもらえたと言える。
- ・第1回集学的痛み診療セミナー－精神科との連携について考える－：これまでの課題であった精神科との連携に向けて、精神科医の参加を主眼に置いたセミナーを開催した。参加者は75名（会場9名、オンライン70名）で、医師・歯科医師が約52%、他に心理士（師）、理学療法士、作業療法士などであった。
- ・他領域主催のセミナーでの講演：頭痛教室、開業医・リハビリテーション療法士セミナー、歯科セミナーで講演・監修を行った。

【診療連携】 他のモデル事業連携施設に1名の患者を紹介し、13例の患者の紹介を受けた。いずれも集学的な病態評価、診療が必要な患者であり、多彩な専門分野を持つ施設が参加しているモデル事業ならではの連携と考えている。連携医療機関に参加してもらっている精神科には5つと変わりがなかった。

【地域連携】 関西医科大学附属病院痛みセンターに新たにリウマチ・膠原病科が参加し、10月には地域の痛み診療に携わる医師、メディカルスタッフを対象とした独自のWebセミナーを開催した。4月から2月までに痛みセンター心療内科部門へは76名の患者紹介があり、うち地域からの紹介は65.8%を占めており、地域連携による慢性疼痛診療の中核病院としての機能を果たしている。

事業報告 心身医療

- ・ モデル事業内の診療連携
 - 他施設へ紹介：1例
 - 他施設から紹介：13例
- ・ 関西医科大学附属病院痛みセンター
 - ペイン、心療内科、リハ科、頭痛外来、整形外科、健康科学センター（予防医学）、精神科、歯科口腔外科に加え、リウマチ・膠原病科が参加
 - 心療内科部門で76例（2022.4～2023.2）：他院からの紹介65.8%
 - 地域の医療者向けに『地域で考える痛みWebセミナー』開催
- ・ セミナー開催・参加
 - 第13回関西痛みの診療研究会：54名参加（会場15名、オンライン39名）
 - 第2回心と身体の痛みセミナー：142名参加（医師・歯科医師と心理士（師）が各約30%）
 - 他領域主催セミナーでの講演：頭痛セミナー、開業医・リハビリテーション療法士セミナー、歯科セミナーで講演・監修

4. 集学的診療

慢性疼痛に対する集学的診療推進事業

高橋 紀代（医療法人篤友会 千里山病院在宅医療センター）

慢性疼痛の集学的治療は医療職の間でも十分に周知されているとは言えない。今年度の3つの目標に対し取り組みを行ったので報告する。

今年度の目標と取り組み

1. 集学的診療の周知
集学的診療セミナー（以下、セミナー）2回開催
2. 市民への集学的診療の啓発
市民公開講座を開催
3. 集学的診療を提供する医療連携のさらなる充実
産業医セミナーにて講演、精神科連携、いたみどめ調整入院の利用

1. 第1回 セミナー

2022年10月30日 福井大学にてハイブリッド開催した。参加者は会場13名、オンライン48名であった。第1部多診療科セミナーでは、福井大学の脳神経外科、整形外科、麻酔科の先生方の講演があり、第2部は、酒井美枝先生、久郷真人先生 の講演と総合討論を行った。多診療科セミナーとの開催で、痛みを訴える人に対する各診療科の取り組みが報告され、福井大学における集学的診療の必要性を再確認したセミナーとなった。

第2回 セミナー

2023年1月22日 ハイブリッド開催 参加者は会場8名、オンライン19名であった。この疾病を抱える心理職の講演により、患者からの視点の情報も多く貴重な機会となった。参加者は少なかったが、アンケートでは、疼痛のある疾患に焦点をあてた点は評価された。

2. 市民公開講座

開業医セミナーと共同でYouTubeライブ配信した。いたきんネットにて引き続きオンデマンド配信中である。

3. 集学的診療連携

産業医慢性痛セミナーにて「痛みを抱える人に対する就労支援」を発表し産業医に集学的診療の啓発を行った。昨年に引き続き、近隣精神科病院と合同カンファレンスにて症例検討を行った。集学的痛みセンター患者に対し、いたみどめ調整入院を利用し、効果を上げた。

当セミナーでは、集学的診療の周知を目的に集学的痛みセンターのない地域にてセミナーを開催してきた。和歌山、奈良、福井と開催し、目標を達成した。当セミナーの今後の方向性について検討が必要である。

令和4年度 厚生労働省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区
～集学的診療～

令和4年度の取り組みのまとめ

- 1 集学的診療セミナー(以下、セミナー) 2回開催
第1回セミナー-22年10月30日ハイブリッド開催
多診療科セミナー×集学的診療セミナー
福井大学医学部臨床教育研修センター
会場13名
オンライン48名
第2回セミナー-23年1月22日ハイブリッド開催
「見えない痛みと知られない病態の中で生きる
エーラスダンロス症候群の患者
集学的診療システムが光をあてることのできるのか
- 2 市民公開講座
(市民への集学的診療の啓発目的)
開業医セミナーと共同開催しYouTubeライブ配信した。終了後はオンデマンドにて本モデル事業のHPにアップし、関連施設からリンク。
- 3 精神科連携
千里山病院集学的痛みセンターと近隣精神科病院との連携を深め、関係者で話し合いを重ね、21年から合同カンファレンスを実施している。22年度も引き続き開催した。

千里山病院 オンラインの取り組み

- 1 オンライン見学の受け入れ 1件
- 2 復職支援: 適宜、休職中の上司にオンラインで病状を伝え、就労への道筋を検討した。
- 3 オンライン診療開始: 1名開始。関東在住のため、初診後はオンラインのみでの診療継続中である。

5. 頭痛診療

慢性頭痛の診療連携推進事業

竹島多賀夫（医療法人寿会 富永病院頭痛センター）

セミナーはハイブリッドで2回開催した。1回目は9月4日午前、「かかりつけ医のための頭痛診療ファースト・ステップ」として、92名の参加者を集め、二次性頭痛（松森保彦先生）、緊張型頭痛（西郷和真先生）、頭痛性疾患のStigma（高橋牧郎先生）、片頭痛（菊井祥二先生）、集学的治療・認知行動療法（柴田政彦先生）の講演をいただいた。2回目は12月4日に、大阪大学の石垣尚一先生との共同企画で昨年を引き続き、「歯科医師のためのHeadache Academy 3」として、TACsの診かたについて、109名と多くの医師、歯科医師の参加者を集め、一次性頭痛の分類と病態（石井亮太郎先生）、群発頭痛の診断と治療（前田 倫先生）、診察のポイント（石崎公郁子先生）、その他のTACsの診断と治療（北村重和先生）、抗CGRP関連薬について（菊井祥二先生）の講演をいただいた。

頭痛ナース養成講座を9月11日に主催し、看護師をはじめ多くの職種の方々に登壇いただいた。頭痛教室はハイブリッドで3回開催した。毎回、坂井文彦先生（埼玉国際頭痛センター）に参加いただいた。第2回（9月4日午後）はモデル事業と共催した。第3回（1月14日）は次回国際頭痛学会会長のChu先生（ソウル大学）と韓国の患者さんも参加いただき、活発な議論が展開された。

集学的治療は、後藤あかり先生に入院49名、外来18名（カウンセリング件数79件）の介入をいただいた。月1回、多職種カンファレンスを行い、難治例を中心に検討した。2月から外部参加も可能になった。

(令和4年度の主な業績)

①第50回頭痛学会総会


認知再構成法を用いたカウンセリングが疼痛軽減に有効であった慢性片頭痛の一症例（後藤あかり、ら）

②片頭痛に対する認知行動療法講習会

評価（團野大介）、ACT、マインドフルネス（後藤あかり）

③頭痛ナース養成講座


看護師のかかわり方（田畑かおり）、英国における頭痛専門ナース（團野大介）、看護師の立場から（岸川 薫）、臨床心理士の立場から（後藤あかり）



社会医療法人 寿会
富永病院 脳神経内科・頭痛センター
= 令和4年度事業報告 =

2023年3月19日, web会議

- 集学的治療（入院49名、外来18名）、多職種カンファレンス（毎月1回、難治例、2月から外部参加可）
- 認知再構成法を用いたカウンセリングが疼痛軽減に有効であった慢性片頭痛の一症例（後藤あかり、ら、第50回頭痛学会総会一般演題）
- 片頭痛に対する認知行動療法講習会
評価（團野大介）、ACT、マインドフルネス（後藤あかり）
- 患者向け講演会：頭痛教室
4月16日（埼玉国際頭痛センターとのジョイント）、6月8日（第23回）、9月4日（第24回）；モデル事業共催）、1月14日（第25回、日韓共同企画、ソウル大学Chu先生）
- 医師向け講演会：9月14日 かかりつけ医のための頭痛診療ファースト・ステップ
- 歯科医向け講演会：12月4日 歯科医師のためのHeadache Academy 3（石垣先生との共同企画）
- 看護師向け講演会：9月11日 頭痛ナース養成講座（第2回）
- 新規片頭痛治療（抗CGRP抗体）に関連した共同疫学研究：進行中



https://www.jshonet.net/pdf/kaudou_manual.pdf

6. インターベンション

インターベンショナル痛み治療の診療連携推進事業

松田 陽一（大阪大学大学院医学系研究科麻酔・集中治療医学教室）

慢性疼痛では、生物心理社会モデルに基づいた患者評価のもとに治療方針をたてることが重要で、適切な評価をした上でインターベンショナル治療を行うと痛みが軽減・緩和され患者の生活の質（QOL）が改善されることが多い。また、インターベンショナル治療は、痛みが緩和することでリハビリテーション、運動療法が行いやすくなり、多職種によるチーム医療が行いやすくなるメリットがある。しかし、インターベンショナル治療は専門家以外の医療従事者にその内容と適応が十分に理解されいるとはいえず、効果的な診療連携を推進するために非専門家向けの啓蒙が重要課題である。

令和元年度に開催したインターベンショナル痛み治療セミナーでは、麻酔科ペインクリニック医に加えて整形外科、内科の医師、理学療法士、看護師の方々に適応・手技などについて紹介・意見交換を行い、参加者から理解が深まったと大きな反響があったが、非専門家向けのセミナーであることがわかりにくいとの指摘があった。令和2年度は、より非専門家向けのセミナーを開催してさらに啓蒙を進めていく方針とし、「非専門家に知ってほしいインターベンショナル痛み治療セミナー」を企画した。令和3年度は、インターベンショナル痛み治療の代表的な適応である運動器慢性痛に焦点を当て、具体的な診療連携推進における課題を議論して参加者と共有するため、脊椎外科医、超音波ガイド下インターベンションを専門とする整形外科医、理学療法士の3名を演者とするシンポジウムを開催した。コロナ禍の状況によりオンライン開催予定となったが、整形外科医、理学療法士、麻酔科医以外にも多職種の参加申込があった。

令和4年度は、代表的な慢性疼痛であるにもかかわらず患者が効果的な治療にたどり着くことが難しい慢性腰痛について、インターベンショナル痛み治療が適する患者を具体的に啓蒙するセミナーを開催した。医師のみならず、他のメディカルスタッフの参加者からもうどうい患者を紹介すべきかわかったとの反響があり、今後の診療連携に役立つ内容であったと考えられた。

令和4年度 インターベンション治療の診療連携事業

・セミナー “インターベンショナル治療が有効な腰痛を知ろう”

日時：2022年10月2日(日) 15:00～17:20

会場：CIVI研修センター新大阪東（ハイブリッド）

参加者：62名（オンライン55、現地参加3、登壇者4）



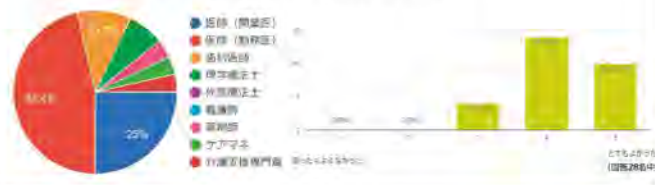
令和4年度 インターベンション治療の診療連携事業

・セミナー “インターベンショナル治療が有効な腰痛を知ろう”

日時：2022年10月2日(日) 15:00～17:20

会場：CIVI研修センター新大阪東（ハイブリッド）

参加者：62名（オンライン55、現地参加3、登壇者4）



令和4年度 インターベンション治療の診療連携事業

・次年度以降のセミナーのテーマ

- 医師以外の職種の参加者を主な対象に
- よりわかりやすく、よりキャッチーな内容を模索したい

7. 歯科医療

歯科・口腔外科の診療連携事業

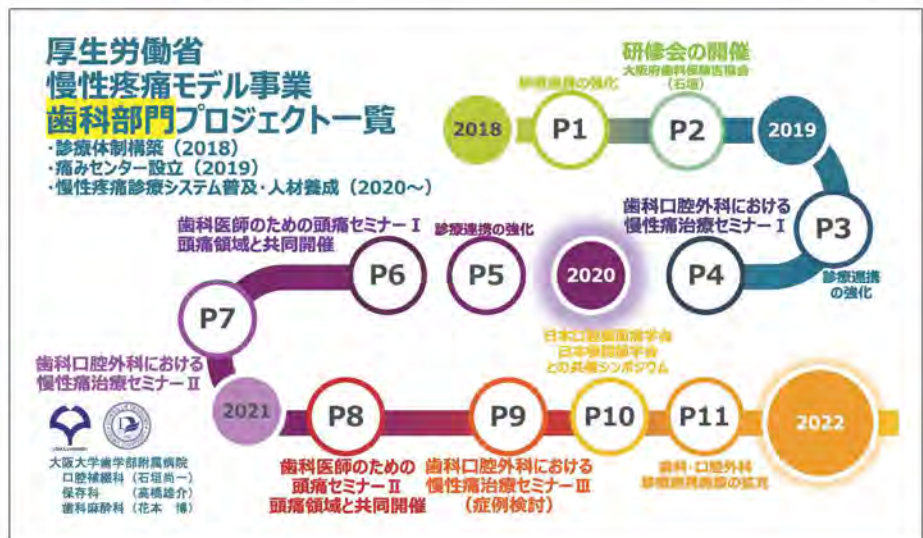
石垣 尚一（大阪大学大学院歯学研究科）

歯科・口腔外科領域においても、筋・筋膜性疼痛、神経障害性疼痛、口腔灼熱痛症候群、持続性特発性歯痛など、慢性疼痛への対応が必要な症例は少なくない。大阪大学歯学部附属病院では、このような症例の紹介を受け診療にあたっている。その際、口腔顔面領域に疼痛が発現する頭痛に関する知識や、認知行動療法など精神心理学的な対応が必要となる。このためには歯科を含めた集学的診療体系の構築が不可欠であり、以下の活動を行なった。

まず、2022年12月4日に、「歯科医のためのHeadache Academy ～三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かた～」をテーマとしたセミナーを開催した。本セミナーでは109名の参加者を集め、歯科医師にとって必要な頭痛の知識について、9名の座長・講師による講演が対面およびWebのハイブリッド開催形式で行なわれた。

次に、2023年2月5日に、「歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」をテーマとしたセミナーを開催した。本セミナーも、全国から140名の参加者を集め、5名の座長・講師から集学的立場からの診療介入、生物心理社会的診療介入について講演が行なわれたのち、歯科から提示した1症例について、心療内科や理学療法の立場から討論や質疑応答を行ない、歯科口腔外科領域における慢性痛に対する集学的治療の模擬体験を行い、より参加者の理解を深めることに努めた。

今後も、このような活動を通じて、歯科を含む慢性疼痛診療システムを普及させ、歯科・口腔外科領域における人材養成を継続していく必要があることの重要性が確認された。また、慢性頭痛の診療連携事業と合同開催のセミナーは、定期的に開催を希望する参加者が多かったため、次年度以降も連携して広報、啓発を進めていきたい。



8. 地域医療介護連携

デイケア・デイサービス等の診療連携事業

中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック)

介護労働は肉体的にも精神的にも負担の多い職種であり、介護職員において腰痛や頸肩腕障害など作業関連運動器障害の罹患率が高いことは既に多数の報告がある。介護者を対象とした種々の調査研究において、約55～80%の介護者に腰痛の訴えがあると報告されており、腰痛は介護者にとって深刻な問題となっている。このように腰痛など作業関連運動器障害が多い介護者において、リフトをはじめとした種々の福祉用具の使用が介護者の疼痛予防に有用であると考えられている。今年度の地域医療介護連携セミナーでは、埜田和史先生(琵琶湖リハビリテーション専門職大学教授)に「介護現場で広がってきている腰痛予防の取り組み」について講演頂いた。また、厚生労働省の2019年国民生活基礎調査の概況によると、65歳以上の要介護者と同居している世帯の中での老老介護の割合は59.7%、この割合は年々上昇傾向にあります。要介護者と介護者の両方が75歳以上である超老老介護の割合は33.1%という結果です。今後も高齢化が進むにつれてこの割合がさらに増えていくと予想されます。中谷裕也先生(なかつか整形外科リハビリクリニック理学療法士)・鳴尾彰人先生(篤友会リハビリテーションクリニック理学療法士)には「老老介護におけるリハビリテーション」について講演頂いた。今年度セミナーにおいても医師・看護師・療法士だけでなく、介護地域包括の職員・ケアマネージャー・介護士など多職種の方々に本セミナーに参加頂き、介護従事者の痛みや老老介護の問題について議論した。

令和4年度・地域医療介護連携セミナー

令和4年度 第1回 地域医療介護連携セミナー
第1回 地域医療介護連携セミナー
介護現場での「痛み」の対応を学ぶ
- 介護者の痛みの問題 -
日時 2022年11月26日(土) 16:00～18:40
場所 GIVI研修センター新大阪東E704 (ハイブリッド開催)
主催 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
タイムスケジュール
16:00～16:05
①開会挨拶 福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院ペッククリニック 病院長)
16:05～17:05
②「介護現場で広がってきている腰痛予防の取り組み」
座長 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
演者 埜田 和史 (琵琶湖リハビリテーション専門職大学教授)
17:05～17:10 休憩
17:10～18:00
③「老老介護におけるリハビリテーション」
座長 下 和弘 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部 助産学専攻科 理学療法士)
演者 鳴尾 彰人 (篤友会リハビリテーションクリニック 理学療法士)
18:00～18:40
④「現場の痛みを痛みや在宅医療の専門家と一緒に話し合う」
座長 中谷 裕也 (なかつか整形外科リハビリクリニック 理学療法士)
演者 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
18:40～18:45
⑤閉会挨拶 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)



第1回地域医療介護連携セミナー
参加者77名 (オンライン61名・現地16名)



第2回地域医療介護連携セミナー
参加者81名(オンライン)

令和4年度 第2回 地域医療介護連携セミナー
第2回 地域医療介護連携セミナー
事例検討を通じて在宅医療の様々な痛みを考える
日時 2023年3月4日(土) 16:00～18:40
オンライン開催 (Zoomにて実施)
総合司会 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
①開会挨拶 福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院ペッククリニック 病院長)
16:05～16:30
②「地域介護における高齢デイケアの役割-要介護者の痛みへの関わり方-」
座長 中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
演者 中谷 裕也 (なかつか整形外科リハビリクリニック 理学療法士)
16:30～16:55
③「訪問リハビリテーション利用者の痛みと転倒」
座長 下 和弘 (神戸学院大学総合リハビリテーション学部 助産学専攻科 理学療法士)
演者 鳴尾 彰人 (篤友会リハビリテーションクリニック 理学療法士)
16:55～17:05 休憩
17:05～17:30
④「終末期におけるリハビリスタッフの心のケア」
座長 高橋 紀代 (篤友会在宅医療センター 院長)
演者 中谷 裕也 (なかつか整形外科リハビリクリニック 理学療法士)
17:30～18:30
⑤閉会挨拶
中塚 映政 (なかつか整形外科リハビリクリニック 院長)
⑥挨拶 福井 聖 (滋賀医科大学医学部附属病院ペッククリニック 病院長)
【参加申込方法】
ZOOMURLまたはQRコードより
お申し込みフォームにご入力ください
https://forms.gle/KCLHk3gU78hXUURs4
住所 中塚 大塚町 大塚町 大塚町 大塚町

9. 患者会連携

患者会との連携事業

三木 健司 (大阪行岡医療大学)・橋本 淳 (大阪南医療センター)

私たちは患者会との連携を担当しています。患者会との連携について、個々の患者支援団体と直接連携を取る方法と、行政機関を通じて、連携を取る方法が有ると思われま。私たちの場合は、行政(大阪府)と直接やり取りし、その承認を得て、患者会連携セミナーを開催することが出来ました。行政との連携でもっとも重要なことは企画書づくりです。行政は公平・中立が重要であり、様々な団体と関連があるため、交渉も重要です。以下は企画書の一部ですが、このような内容で、担当部局と交渉しました。行政からの予算がゼロということも、重要なポイントです。ただ会場や設備などを無償で使用が可能でした。ただ、承認が得られると、大阪府の行政システム内の広報が使用できるようになるので、1800件以上の医療機関、7万名近くの難病患者さん、大阪府のホームページでの広報をして下さいます。

企画書

事業名	慢性のいたみを持つ方への情報提供としての講演会・交流会の開催
事業内容	慢性のいたみに苦しむ患者さんは多く居ます。原疾患の状態に関わらず長引く痛みを改善する方法の講演および患者さん同士の交流会を行う 講師は厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業近畿地区から派遣
予算	ゼロ (厚労省モデル事業から支出)
対象者	患者、家族、患者会会員、難病連会員など



大阪難病相談支援センターニュース44号にも取り上げて頂きました。

参加者の感想

- ・週1回でもやりたいと思って運動することが大切と知った。
- ・痛みは心理的なものも含まれ、自分の痛みをどのようにとらえるかが大切と教えて頂いた。
- ・患者どうしの交流があっってうれしかった。」と概ね好評でした。

参加者のアンケートからも講演内容や患者会連携セミナーの内容が望まれていることが分かる。今後もこのような内容で行うことが重要と考えている。

■ 研修会開催一覧

開催日	セミナー名	事業名	開催方法	開催形式	対象	場 所
2022/ 6 /24	千里山病院多診療科セミナー (院内研修会)	多診療科セミナー	現地	共催	医療者	篤友会千里山病院
2022/ 6 /27	千里山病院多診療科セミナー (院内研修会)	多診療科セミナー	現地	共催	医療者	篤友会千里山病院
2022/ 9 / 4	頭痛セミナー「かかりつけ医のためのファースト・ステップ」	頭痛診療	HB	主催	医療者	富永クリニック3階大会議室
2022/ 9 / 4	第24回富永病院 頭痛教室	頭痛診療	HB	共催	一般 医療者	富永クリニック3階大会議室
2022/ 9 /23	患者会連携セミナー 「難病患者の多くを苦しめる慢性疼痛、その正体と対応」	患者会連携	HB	主催	一般 医療者	大阪難病相談支援センター
2022/10/ 2	多職種向け慢性疼痛診療連携セミナー インターベンショナル治療が有効な腰痛を知ろう	インターベンション	HB	主催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E704
2022/10/16	第1回開業医・リハビリテーション療法士セミナー 「楽しくできる慢性痛診療」	開業医リハ	HB	主催	医療者	グランフロント大阪ナレッジキャピタルカンファレンスルームRoomC05
2022/10/30	多診療科セミナー×集学的診療セミナー@福井	集学的診療	HB	主催	医療者	福井大学医学部臨床教育研修センター白鷺会ホール
2022/11/26	第1回地域医療介護連携セミナー 「介護現場での「痛み」の対応を学ぶⅢ」	地域医療介護連携	HB	主催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E704
2022/12/ 4	第3回歯科医のためのHeadache Academy ～三叉神経・自律神経性頭痛 (TACs) の診かた～	歯科・頭痛	HB	主催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E704
2022/12/10	産業医慢性痛セミナー	産業医	HB	主催	医療者	滋賀医科大学臨床講義室3・堺市産業振興センター会館セミナー室4・5
2022/12/17	第13回関西痛みの診療研究会	心身医療	HB	共催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E604
2023/ 1 /21	心と身体の痛みセミナー	心身医療	HB	主催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E704
2023/ 1 /22	第2回集学的診療セミナー 「見えない病気と知られない病態の中で生きる エーラスダンロス症候群の患者 集学的診療システムが光をあてることができるか」	集学的診療	HB	主催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E303
2023/ 2 / 5	第2回歯科セミナー 「第5回 歯科・口腔外科領域における痛みのとらえ方と集学的診療の必要性」	歯科・頭痛	HB	主催	医療者	グランフロント大阪ナレッジキャピタルカンファレンスルームRoomC05
2023/ 2 /18	集学的痛み診療セミナー ―精神科との連携について考える―	心身医療	HB	主催	医療者	CIVI研修センター新大阪東E704
2023/ 2 /23	市民公開講座「あなたのその痛みの治し方～あなたと私（医療者）ができること～」	開業医リハ 集学的診療	HB	主催	一般 医療者	YouTubeチャンネルでのライブ配信（アーカイブあり）
2023/ 2 /26	慢性疼痛診療研修会近畿ブロック		HB	共催	医療者 介護職	CIVI研修センター新大阪東E704
2023/ 3 / 4	第2回地域医療介護連携セミナー 「事例検討を通じて在宅医療の様々な痛みを考える」	地域医療介護連携	OL	主催	医療者 介護職	オンライン
2023/ 3 /15	精神科医が伝える！慢性疼痛に対する実践的アプローチ ―発達障害の観点も含めて―	多診療科セミナー	OL	共催	医療者	オンライン
2023/ 3 /26	第8回 慢性痛に対する認知行動療法研修会		OL	共催	医療者	オンライン

備考	後援	参加者数	時間数	医師	歯科医師	看護師	理学療法士	作業療法士	心理士	薬剤師	介護職	その他・不明
主催：篤友会千里山病院			15分									
主催：篤友会千里山病院			15分									
	日本頭痛学会、社会医療法人寿会富永病院、大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県	92	3時間	45	25	2	6	0	5	1	1	7
主催：富永クリニック		170	2時間30分									
共催：大阪難病相談支援センター	大阪府、大阪市、滋賀県、滋賀県難病連絡協議会、公益財団法人運動器の健康・日本協会、一般社団法人日本いたみ財団	98	2時間									
日整会単位、医師会単位	大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県	62	2時間20分	44	5	0	4	0	0	2	2	5
医師会単位	大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県	99	2時間30分	46	5	4	21	3	0	1	3	16
共催：福井大学医学部医学科麻酔・蘇生学	福井県医師会、福井県、滋賀県	61	3時間	33	4	0	11	1	5	2	0	5
	大阪府、大阪市、滋賀県、大阪府医師会	77	2時間40分	20	3	10	16	5	0	1	11	11
共催：大阪大学歯学部附属病院	一般社団法人日本口腔顔面痛学会、大阪府、大阪市、大阪府歯科医師会、滋賀県	109	3時間	19	84	0	1	0	0	2		3
共催：日本産業衛生学会、作業関連性運動器障害研究会、大阪府保険医協会産業医対策委員会、滋賀県医師会、滋賀県産業医会、滋賀産業保健総合支援センター 日本医師会認定産業医制度生涯研修会・専門単位	滋賀県、大阪府	182	2時間10分	151	1	5	12	0	1	1	0	11
主催：関西痛みの診療研究会		54	3時間30分	40	2	1	5	2	4	0	0	0
		142	2時間30分	32	10	3	13	10	46	0	1	27
	大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県	25	3時間	10	3	2	3	0	2	1	0	4
共催：大阪大学歯学部附属病院	一般社団法人日本口腔顔面痛学会、予定：大阪府、大阪市、大阪府歯科医師会、滋賀県	140	3時間	19	93	1	3	0	1	3	0	20
		75	2時間	30	9	1	8	7	10	0	0	10
視聴回数1,102回 (2023/ 2 / 8現在)	大阪府、大阪市、滋賀県、大阪府医師会	180	1時間30分									
共催：一般社団法人日本痛み財団		29	3時間30分	17	4	0	3	0	3	0	0	2
	大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県	90	2時間40分	11	7	17	19	0	3	2	11	20
主催：兵庫医科大学病院ペインクリニック部		50	1時間									
共催：一般社団法人認知行動療法研修開発センター			2時間30分									
	計	1776	48時間50分	517	255	46	125	28	80	16	29	141

3 研修会開催報告



■主催セミナー

①頭痛セミナー「かかりつけ医のための頭痛診療ファーストステップ」

令和4年度 厚労省 慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-セミナー

かかりつけ医のための

頭痛診療ファースト・ステップ

日時 令和4年
9月4日(日) 10:00~13:00

場所 **富永クリニック 3階会議室**
大阪市浪速区敷津西2丁目2番14号

参加費 無料
会場先着 20名
ハイブリッド開催

10:00-10:05
開会の辞 竹島 多賀夫先生(富永病院 脳神経内科・頭痛センター)

10:05-
座長: 竹島 多賀夫先生

講演 1 二次性頭痛を見逃さないためのコツ
松森 保彦先生(仙台頭痛脳神経クリニック) 25分

講演 2 緊張型頭痛の診断と治療
西郷 和真先生(近畿大学 遺伝子診療部/脳神経内科(兼任)) 25分

11:00 休憩

11:10-
座長: 福井 聖先生(滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 学際的痛み治療センター)

講演 3 頭痛性疾患のStigmaを理解する
高橋 牧郎先生(公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院脳神経内科) 25分

講演 4 片頭痛の診断と治療
菊井 祥二先生(富永病院 脳神経内科・頭痛センター) 25分

講演 5 頭痛の集学的治療・認知行動療法
柴田 政彦先生(奈良学園大学保健医療学部) 25分

12:25-12:30
閉会の辞 福井 聖先生

後援: 日本頭痛学会、社会医療法人寿会富永病院、大阪府医師会、大阪府、大阪市、滋賀県
滋賀県慢性疼痛対策推進事業



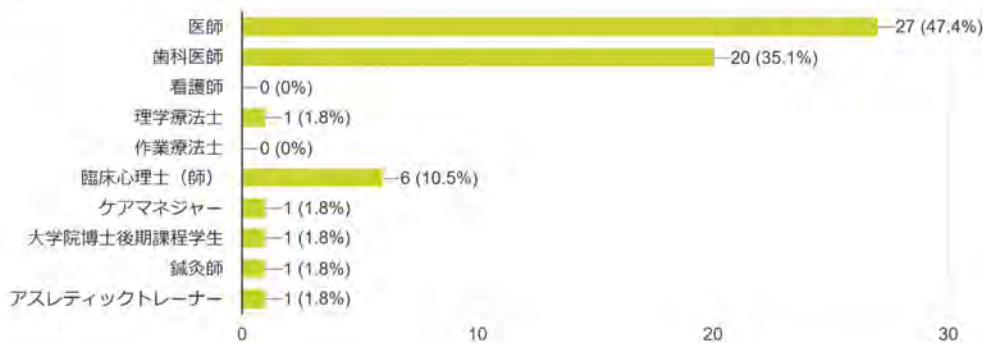
頭痛セミナー「かかりつけ医のための頭痛診療ファーストステップ」 アンケート集計結果

2022年9月4日（日） 10：00～13：00（ハイブリッド開催）

参加者数 計92名（オンライン82名・現地参加3名・登壇者7名）

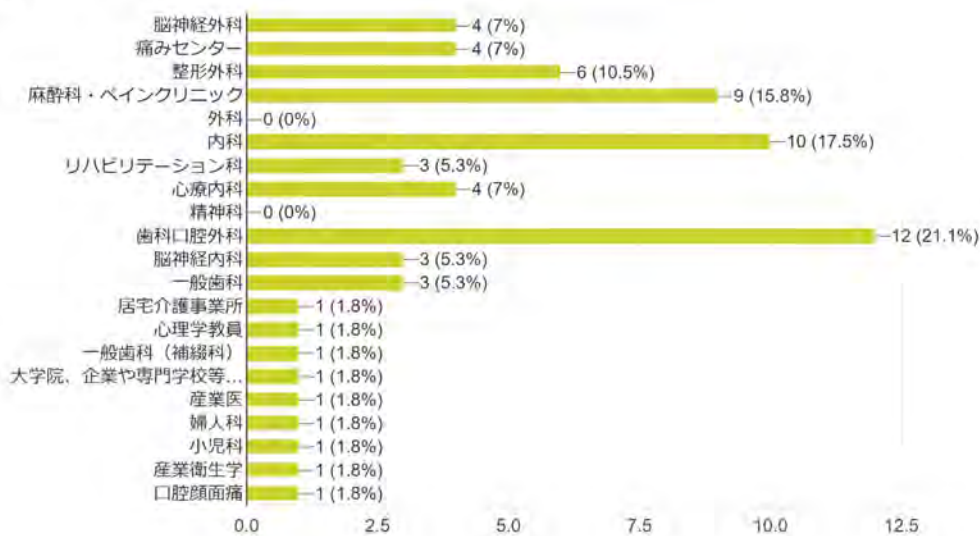
職種を教えてください。

57件の回答



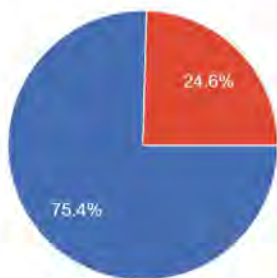
所属科（または関わりのある診療科）を教えてください。

57件の回答



今回のセミナーの感想を教えてください。

57件の回答



- よかった
- まあよかった
- あまりよくなかった
- まったくよくなかった

■今回のモデル事業セミナーの良かった点を挙げてください

- ・松森先生の講義がわかりやすかったです。
- ・行動療法の併用
- ・頭痛に関する初学者にもわかりやすい講演でした
- ・集学的治療
- ・二次性頭痛の鑑別や頭痛のスティグマが勉強になった
- ・各パートが非常に良くまとめられていた。
- ・頭痛薬の新しい情報もお聞きすることができた
- ・現場の悩みに即して、最新の情報も盛り込んでくださっていて役に立つと思いました。
- ・歯科医なので直接頭痛診療に携わることはありませんが知識として頭痛診療について知ることができた点。
- ・とても勉強になり、日々の診療の参考となる多くの知恵をいただきました。どうもありがとうございました。
- ・メーカーの影響がない
- ・簡潔的にまとめていただいていた、知識の整理になった。ありがとうございました。
- ・頭痛の種別の違いや誤解されやすい点を詳しくうかがえて参考になりました。
- ・認知行動療法について、おおくの気付きをお示しいただきました。患者さんを御紹介するにはどうしたよいのでしょうか？
- ・口腔顔面痛専門医にもわかりやすく有益なセミナーであったこと
- ・幅広く頭痛の基本的な内容が学べた事が良かったです。
- ・各頭痛についてまとめてわかりやすくご講義くださり、ありがとうございました。先生方のご経験された症例について伺うことができ、大変興味深かったです。そして集学的診療のお話まで伺うことができ大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・柴田先生がご講演の中でおっしゃってくださった、ためしてガッテンなどの患者さん向け資材をいただくことはできますでしょうか？ご検討よろしくお願

- いします。
- ・内容がわかり易かったです。自分の診療が間違えてないことも確認できました。
- ・いつも第一線で患者さんの治療をされている先生方から理論と臨床現場の実経験の両方からお話いただけたことが学びになりました。
- ・頭痛についての説明を分かりやすくしていただきました
- ・ウェブセミナーなので参加しやすかったです。
- ・内容がわかりやすく、診療の際の気を付けるべき症状など知ることができた。
- ・二次性頭痛との鑑別、CGRP関連抗体製剤、片頭痛と緊張性頭痛の重なり
- ・わかりやすかった
- ・症例を聴くことができた
- ・オンラインで参加できたのでとても参加しやすく有意義でした。
- ・二次性頭痛の解説
- ・痛みに対しての取り組みをされているところ
- ・実臨床に非常に参考になりました
- ・基本的な事が詳しく説明されて理解しやすかった
- ・内容が具体的でわかりやすい
- ・色々な方面から痛みの頭痛のアプローチが聞けたこと。
- ・頭痛という領域は発展途上の領域であるということが分かってよかった。
- ・生物心理社会モデルに基づいていたから
- ・頭痛の日常診療に役立つ内容だった。
- ・判断根拠が箇条書き一覧で、項目は多いが、一目で目を通せる講義が多かった
- ・頭痛の基本的な知識の確認に非常に役立ちました
- ・歯科ゆえ頭痛診療を直接行わないが、顎顔面痛に重なる場合も散見するのでこのように系統だって簡潔明瞭に講演いただき、知識の整理に役立った。
- ・二次性頭痛について勉強になった

■慢性の頭痛治療の課題・問題についてご意見があればお願いいたします

- ・集学的治療を確立させるのがなかなか難しい点です
- ・集学的治療必要な患者さんを、どのように集学的治療に持って行けば良いのか、具体的な方法がわからない
- ・内容豊富で有難いのですが、講師の先生方皆、早口でとても速く進むので、私の頭では理解が追いつきませんでした。又、事前に印刷するのに時間がかか

る為、スライドの背景は黒地の小さい字体ではなく『白地』でお願いしたいです。菊井先生の資料が一番見易く、書き込みやすく助かりました。又、恐縮ですが、高橋先生のスライドの5枚目の3種の頭痛の違いについてのスライドで、イラストの下の3種の違いについての『一覧表』を午後の部が改めて、ダウンロードできるようにして頂けませんでしょうか？

よろしくお願ひ致します。貴重な学びの場を有難う御座いました。

- ・セミナーの質問にもありましたが、やはり、既に薬漬けになっているのを外していく難しさを感じています。
- ・器質的疾患がない場合、鍼灸治療も選択肢の一つだと知っていただきたい。
- ・痛みの度合いの個人差を、客観的な評価ができるようになれば良いと思いますが、ガイドラインに乗らない、頭痛対策に効果的な方法の議論
- ・医療の方を対象にしているためか、言葉等が分かりづらいところがあった。
- ・集学的治療を開業医がどのように関わらせてもらえるか
- ・CGRPが効果がない場合どのように対応するか
- ・今回はかかりつけ医さん向けのお話で、わかりやす

く丁寧なご説明を聞けたのが私にも勉強になりました。また、どの演者の先生も、最後は「うまくいかない事例もある」と言われていましたが、やはりそこは共通認識となっているように思います。柴田先生のお話にあったように、ストレス、精神、心理社会的な要因が影響し、パーソナリティや生活・暮らしに関連して、いわば医療の範疇を超えて、課題のある事例も多いものと推察します。この点についても、医療として何ができるかを扱っていただけるテーマで開いてくださると、積極的に参加させていただきたいと思います。

- ・認知行動療法がうまくいく事例とそうでない事例の違いなど
- ・集学的治療を行うにしても、それを行える施設や人材が少ない
- ・いろんな職種との連携が不十分

■今後どのような企画を希望されますか

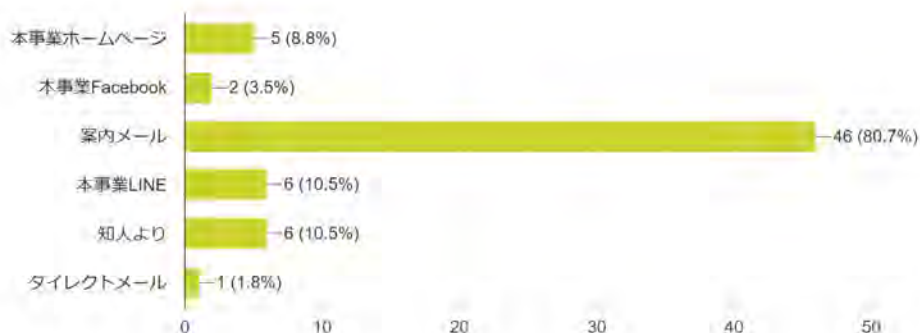
- ・歯痛と頭痛、慢性痛の関わりについて
- ・実際の集学的診療のロールプレイ企画など、実践が目の前で理解できる企画
- ・高橋先生・柴田先生の御講演を、更に掘り下げて教えてくださればと思います。
- ・口腔顔面痛学会とのコラボ企画
- ・本日のように、先生方のご経験されたご症例などご提示いただけると、大変参考になります。
- ・今日のセミナーで、最初の方の質問とご回答の両方の音声が入っていませんでした。次の方から音声が入りましたので、機械の操作をしている方は気づいておられたと思いますので、司会の方に連絡して、その内容を視聴者に教えていただけたらありがたかったです。どんなやり取りがありましたでしょうか

うか？それはともかく、今日のセミナー、ありがとうございました。

- ・今回同様なウェブ形式が良いです。
- ・統合医療の中での頭痛診療
- ・痛みの患者さんの精神的ケア
- ・難病の利用者・家族に対しての支援の仕方等
- ・エコー下神経ブロック
- ・他職種のコラボレーション、難治事例などを希望します。
- ・スポーツと頭痛との関係性を問う企画を希望します。
- ・先天性無痛覚症患者の心理とケア
- ・痛みとの向き合い方についてより臨床に即した考え方

本セミナーをどこでお知りになりましたか？

57件の回答



②患者会連携セミナー「難病患者の多くを苦しめる慢性疼痛、その正体と対応」

令和4年度 厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区
大阪難病相談支援センター事業 患者会連携セミナー

難病患者の多くを苦しめる 慢性疼痛、その正体と対応

講演者



三木 健司先生
(大阪行岡医療大学 医学学部 特別教授/
早石病院 疼痛医療センター センター長)

コーディネーター



橋本 淳先生
(独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
統括診療部長)

日時 2022年9月23日 (金/祝)
14:00~16:00 参加費
無料

場所 大阪難病相談支援センター会議室
大阪市住吉区万代東3丁目1-46
大阪府こころの健康総合センタービル3階
公共交通機関をご利用ください

**会場先着
30名
オンライン参加可**

交流タイム



みんなでお話ししましょう。
医療者もお支えます。

【申込み・問い合わせ】 申込締切 9月13日 (火)

会場参加: 大阪難病相談支援センター
電話: 06-6926-4553 受付時間: 月~金 (祝日除く) 10時~16時30分
メールアドレス: inform@nanbyo.osaka

オンライン参加: 参加申込QRコードを読み取り、参加申込フォームにご入力ください。
(携帯メールの方はPCからのメール受信設定をご確認ください)

共催: 大阪難病相談支援センター
後援: 大阪府, 大阪市, 滋賀県,
滋賀県難病相談支援センター,
公益財団法人 運動器の健康・日本協会,
一般社団法人 日本いたみ財団

いたみ財団のからだの痛み電話ご相談窓口

本法人では、「痛みと社会の問題」を解決するために
電話による「痛み相談窓口」を行っております。
詳細はこちら→ 

大阪難病相談支援センター事業, 滋賀県慢性疼痛対策推進事業 いたきんネット
ita-kin-net

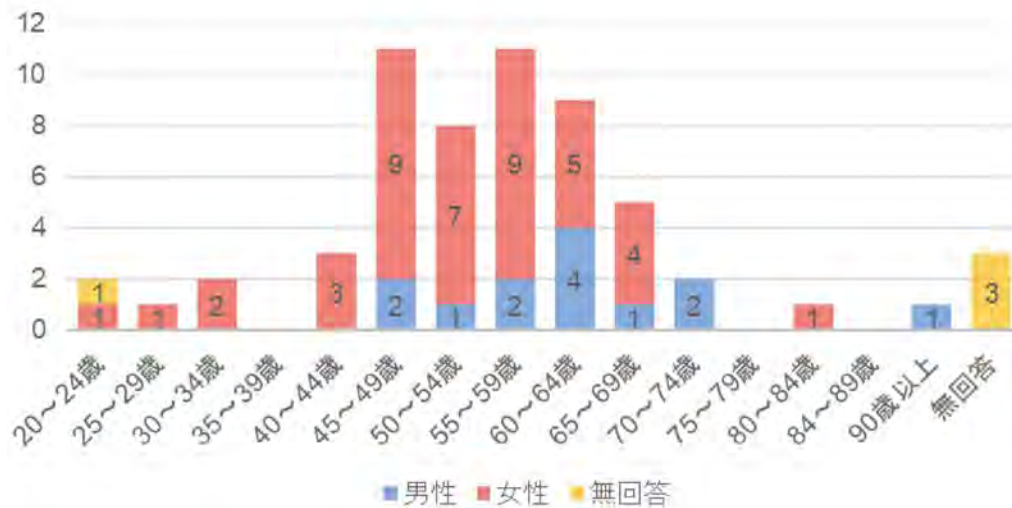


患者会連携セミナー「難病患者の多くを苦しめる慢性疼痛、その正体と対応」 アンケート集計結果

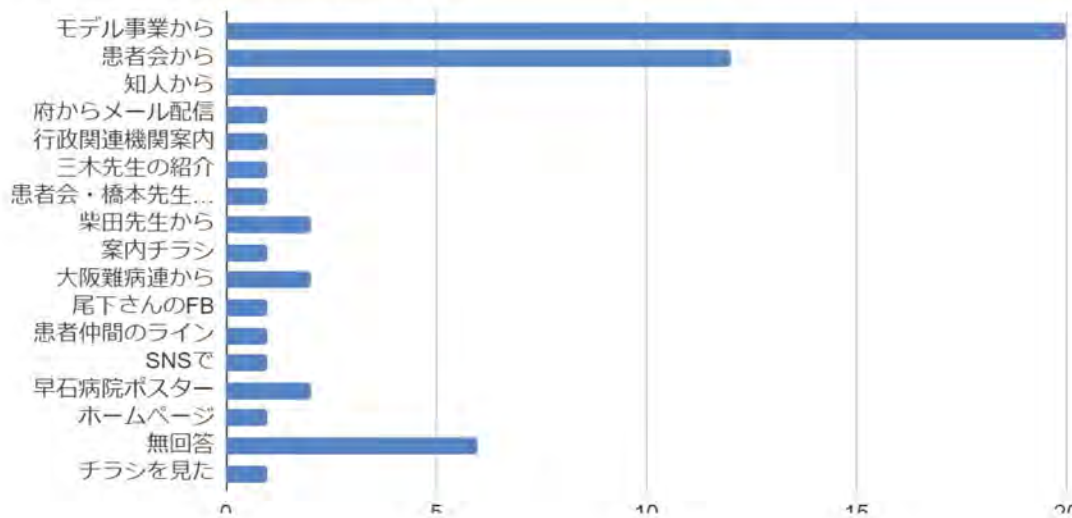
2022年9月23日（金/祝） 14：00～16：00（ハイブリッド開催）

参加者数 計98名（オンライン66名・現地参加22名・スタッフ関係10名）

参加者内訳（年齢・性別）

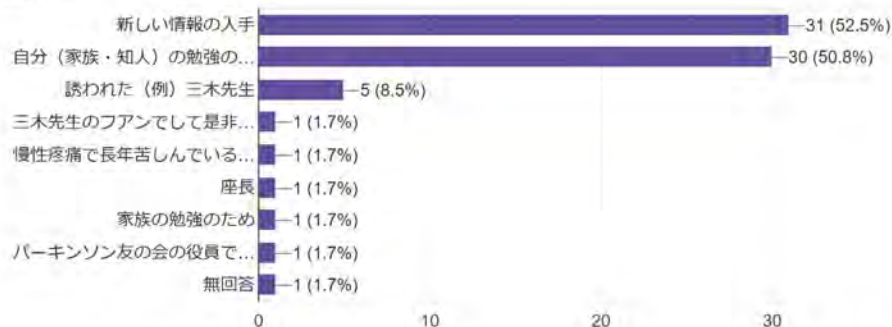


今回のセミナーが開催することを何で知りましたか



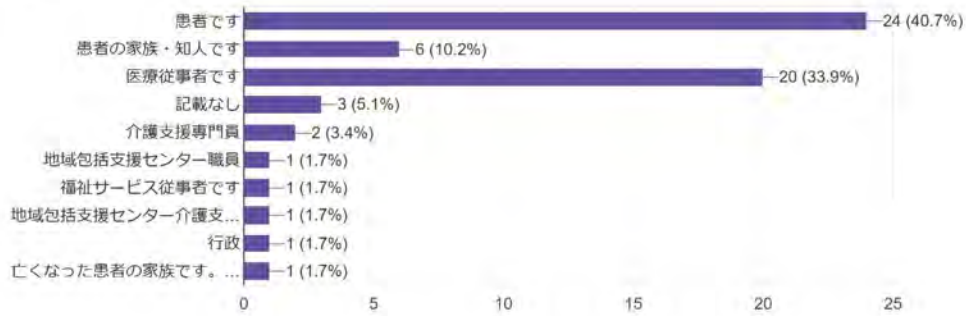
参加の動機

59件の回答



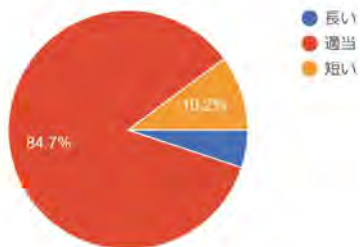
あなたのことを教えてください。

59件の回答



内容について（時間の長さは）

59件の回答



ご自身が望まれた内容でしたか

59件の回答



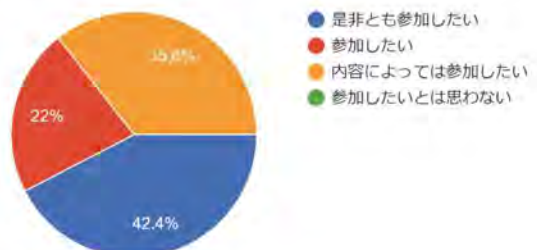
会場と環境について

59件の回答



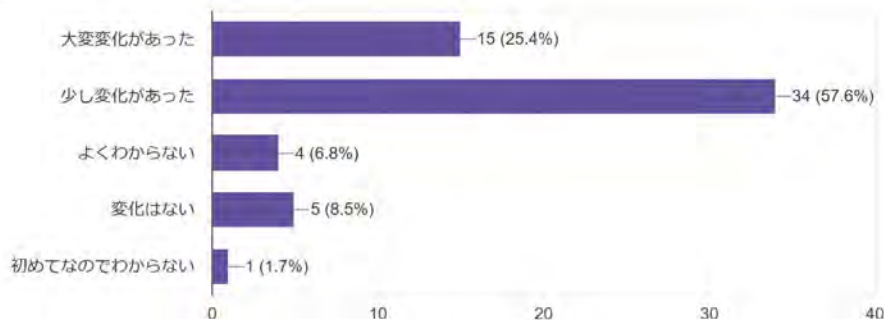
今後も参加したいと思いますか

59件の回答



参加したことでご自身に何らかの変化があれば教えてください

59件の回答



■その他（もっと取り上げてほしいテーマ等）

- ・痛みに関しては1年に1回が望ましい
- ・複合的な痛みの捉え方。
- ・痛みを和らげる薬の動向
- ・運動療法の具体的方法
- ・難病と診断されてからの気持ちの持ち方、受容
- ・三木先生のお話、大変参考になりました。
- ・自分ではしんどいから動けない負の連鎖を断ち切るためのもっと個人的具体的なアプローチを知りたい。
- ・痛みのある方が運動療法を行う場合、特に高齢者には転倒のリスクが伴う。転倒しても軽症ですむような環境を整えられないのか。例えばクッション性の

ある床でも、車いすです暮らすことが前提の、コンクリートの上にカーペットタイルを敷いた環境で良いのかといつも考える。

- ・気象病について
- ・脊髄損傷後疼痛について
- ・腹腔外デスマイドについてなかなか情報が少なく、患者の方と交流する機会も今までなかったので、もし情報や勉強する機会があればありがたいです。
- ・他の痛み・疼痛の対処方法あればよろしくお願ひ致します。
- ・後縦靭帯骨化症

■今回の講演で特に良かったもの、参考になったものはどれですか

- ・三木先生の素晴らしいご講演、ありがとうございました。少しずつ少しずつできる範囲で運動していきたいと思います。
- ・痛みがあっても体を動かす
- ・痛みを取ることで、ADLを向上させること
- ・全てです。
- ・患者自身が認知行動できるように、能動的に痛みを取ることにアプローチが広がることを期待したい
- ・運動を自主的にするとドーパミンが出て効果が高いことがわかりました
- ・軽度の運動の方法
- ・三木先生の柔らかな語り口で、週1回でも運動すること、やりたいと思って運動することが大切ということがわかり、とてもよかったです。
- ・ヘルニアは自然治癒力で治る。お坊さん瞑想
- ・痛みの原因が心理的なものも含まれるということを改めて学ぶことができてよかったです。
- ・三木先生のご講演が大変解りやすく良く理解できました。
- ・脳について
- ・無料の電話相談があるという情報
- ・三木先生の講演が分かりやすくて為になった
- ・「受ける治療」だけでなく、「自分でできることを治療に」という言葉がとても響きました。難病患者さん、慢性疼痛を抱える患者さんはどうしても医療依存度が高くなり、比例してQOLも低くなりやすいと感じます。患者さん自身で目標をもって治療をすすめてもらえるよう、アシストしたいとおもいました
- ・慢性疼痛に対する運動療法の効果。瞑想や呼吸法なども。
- ・このような話を医療者側から聞く事がなかったとい

うコメントがありました。もっと患者さんとお話する事が必要だと思いました。

- ・痛みの仕組み
- ・痛みと心は繋がる
- ・運動の大切さ
- ・慢性的な痛みには運動は有効ということや呼吸法だけで効果があるということが分かり参考になりました。
- ・毎朝、Clubhouseのヨガやピラティスに参加していて、講演で挙げられていたポーズもしますし、しんどい時や忙しい時は呼吸だけでもやるように…とされています。講演によって自分のやっていることがよかったと裏付けされてよかったです。
- ・慢性疼痛への対処や考え方
- ・痛みは辛く、周りの人になかなか分かってもらえない事ですが、医療だけに頼るのではなく、自分の中で、痛みに対する考え方を変えることで、うまく付き合っていけるものだということがわかりました。自分がどのように生きていきたいのか、主体的に考えていく事が大切ですね。
- ・慢性疼痛の起きる仕組みや、ストレスによって腰にかかる負荷が大きく変化する実験動画
- ・患者さんの自発性や自主性・主体性が改めて大事ということ、子育てを参考に長いめで寄り添っていく姿勢が大事だということが特に参考になりました。
- ・薬に頼らず、自らが痛みに向き合い運動でコントロールできるということ、その詳しい運動の内容、
- ・薬以外の生活、運動、認知行動などの方法を知ることができて学びになりました。
- ・PPT資料が大変参考になりました
- ・異常な痛みは脳からきている、ということの再認識、運動などいろいろなことをするにしても、自分の気

持ちが大切というのはその通りだと思いました。認知行動療法も気をそらすだけのものではない、と再認識しました。

- ・やはり社会的要因や脳が関係しているのだとわかった。
- ・整形外科は切って直すことが仕事、と以前よく聞かされました。三木先生のような立場は、風当たりが強いのと思いますが、整形外科のドクターから本日、こういった話を聞くことができ、大変嬉しく思いました。
- ・自分から動く
- ・慢性疼痛を軽減させるには、自発的な適度の運動が効果的であるということ。
- ・自らの運動と強制されての運動の違い
- ・慢性疼痛についての対策
- ・三木先生の講義、患者の体験を聞いた事
- ・毎日適量の運動の効果があるということ。
- ・まずは、このような事業をされていることを知れたこと。そして、もう一つはやっぱり（少々体が痛くても）体を動かすことが大事なんだということを知ることができたこと、です。

■ご意見、ご感想があればご記入ください

- ・また三木先生のご講演を聞きたいです。
- ・今日のお話は一般的なお話だったのが残念でした。難病の人向けという感じはありませんでした。でも勉強になりました。ありがとうございます
- ・遅れて参加してしまい、前半を聞き逃して大変残念でしたが、後半もすばらしい内容でした。ありがとうございました。
- ・ご講演ありがとうございました。
- ・遠隔地なのでzoomは画期的でとても便利です。
- ・心理と深く関わっていることがわかった。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・大変参考になりありがとうございました。
- ・患者さんから相談があった時の参考になりました。ありがとうございました。
- ・講演中にご紹介された動画(犬の動画や腰にかかる負荷の動画)を家族にも見せたいので、公開されているものであればURLを知りたいです。本日はありがとうございました。
- ・理学療法士をしています。上記をふまえ、患者さん主体の運動療法をしていきたいと思えます。明日からの患者さんへのことばかけの参考になることばかりで大変勉強になりました。ありがとうございました。

- ・知らなかった病気の事が知れて良かったです。
- ・三木先生のわかりやすく説明と、疼痛治療の現状、限界
- ・先生の先生の講演の内容と、その後の交流会良かった
- ・心理的ストレスが、慢性の痛みを特に感じる要因になること・自分が心地よいと思う適度な運動が、痛みを減らしていけること。
- ・全人格的に考えることの大切さがわかりました！！
- ・精神的なストレスが疼痛を増強させることが数値化されたエビデンスがあることを知りました。
- ・1. 自分の事ですが、時々こむら返りで弱っていたのですが、怖がる必要がないと分かった。今後は怖くないです！
2. お薬だけでは解決しない
3. 患者自身が自分の治療者になる
- ・自分から進んで何かをすることでドーパミンが出る、嬉しいことです。
- ・運動頻度、脳の痛みの感じ方
- ・患者どうしの交流があったのがうれしい

- ・オンラインでの研修の形式も取って頂けたことで、参加させてもらうことができました。そして貴重な情報を知る事ができて感謝です。有難うございました。
- ・精神論と感じた
- ・今回の機会を頂けて感謝です。ありがとうございました。
- ・慢性痛の患者は痛みに関心が強くて、なんとかして欲しいとの気持ちが強いのだろうと想像していました。自分で何とかしたいという、当たり前の人が多くいることに気づかされました。
- ・10年以上前、腰椎すべり症の痛みで100m歩くのも困難になりました。痛み止めもコルセットも腰椎牽引も効果なく、医師から「あとは手術ですね。」と言われました。手術するくらいならその前に自分で何かできないかと考え、水中ウォーキングを始めたところ、一回ごとにどんどん楽になり数ヶ月で痛みは全くなくなりました。そのままずっと過ごしています。今日の先生のお話そのままの経験だと思いました。しかし、現在でも慢性疼痛で整形外科を受診すると、痛み止めや物療の処方しかしてもらえないことが多い気がします。それがわかっていて受診しない人も多い印象です。一日も早く、「運動」が基本的

な処方となるといいですね。

- ・定期的に開催をお願いいたします。
- ・今日はありがとうございました。診断結果からは全てが中途半端で病気として認められない割には痛みがあるものとしてはこういう勉強会でいろいろ教えて頂けるのは本当にありがたいです。
- ・脊損痛の極みで、右足灼熱痛の患者で、行き着くとこまで、行ってます。不眠が不眠を繰り返す、最悪のパターンと化しています。認知行動療法が適切なのはよくわかりましたが、自分の場合、行き着くとこまで、行っての感があります。脊損疼痛は、未だに、ご存知ない医療関係者までいる特異な病態です。難病指定を再考し、一般社会に知らしめる必要があると思いませんか。安易に、バイク、車、自転車、スポーツ事故等で簡単に起こる可能性があり、なったら、地獄の人生が待ってます。ご高察の程、お願い致します。
- ・はじめての参加でしたが、参加してみてよかったです。痛みをどうにか克服しようとしている方々とお話しできたことも、これまでにない経験となりました。

- ・難病を持つ患者様を多く、訪問させて頂いている看護師ですが、慢性疼痛に対しどう対処させて頂けるか、いつも悩んでいました。これからは、その方の精神的な面も深くアセスメントし、感じている苦しみを緩和してさしあげられるようにしたいです。
- ・「病は気から」と昔から聞いていましたが、科学的にもまさにその通りという事を知れた。気の持ちようが大切（ドーパミンも関与している）と教えて頂いて感謝感激です。
- ・更に孤独になりました(´;ω;`)
- ・痛みについて詳しく知れて良かったです。
- ・もう少しゆっくり話してほしいです。行動を起こすことが大切だと思っています。
- ・肋骨神経痛、背中の術後にも（慢性疼痛）は起こりますか